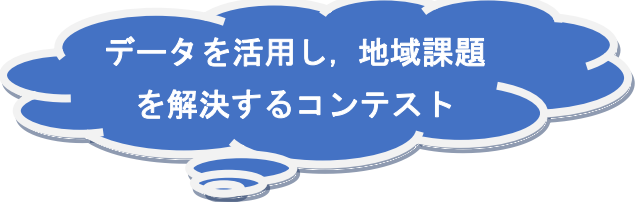


お 知 ら せ



データを活用し、地域課題
を解決するコンテスト

平成 30 年 3 月 9 日
京 都 市 総 合 企 画 局

担当：情報化推進室統計解析担当（222-3216）
総合政策室市民協働推進担当（222-3178）

「チャレンジ！！オープンガバナンス 2017」（主催：東京大学公共政策大学院）

最高位！

市民・京都市の連携でオープンガバナンス総合賞を受賞！

「チャレンジ！！オープンガバナンス 2017」（以下「COG2017」という。）は、自治体が地域課題（子育て・家族・教育，高齢化・介護・医療・健康，エネルギー・環境，防災・防犯，産業振興，まちづくり・交通，地域プロモーション，観光，雇用など）と関連データを提示し，それに対して市民がアイデアをまとめるプロセスと成果が審査・評価されるコンテストです。

この度，京都市が提示した自転車に関する課題に対し，市民の「京の歴史と街並みをつたえ隊」（以下「市民チーム」という。）のアイデア・活動と京都市のサポート，両者の連携が高く評価され，最高位の賞にあたる「オープンガバナンス総合賞」が市民チーム・京都市に授与されましたので，下記のとおりお知らせします。

記

1 COG2017 の概要

- (1) 自治体（29 都市）が市民と一緒に考えたい地域課題（48 課題）と関連データ・情報・資料（以下「公開データ」という。）を併せて提示（6 月～8 月）
- (2) 各自治体の市民は，公開データを活用し，提示された地域課題の解決に向けたアイデアをまとめて提出（9 月～12 月）
- (3) 提出されたアイデア（59 件）の内容と，検討過程で市民と自治体がどれだけ連携して取り組んだかが審査（1 月～2 月）され，1 次審査を通過した 13 件のアイデアの中から，東京大学で開かれる最終公開審査（3 月 4 日）で受賞団体を決定（詳細は 4 ページ参照）
- (4) 最終公開審査の取組には，今後，審査委員会の改善アドバイス（4 月予定）やフォローアップがある。

2 市民チームと本市の連携状況

- (1) 市民チームの中心メンバーである市民団体の Code for Kyoto や世界メッシュコード研究会が定期的に行っている例会・イベントに市職員が参加し，地域課題の発見やオープンデータの活用をテーマにした活発なコミュニケーションによる意見交換，アイデアの発案・具体化の検討
- (2) 京都市オープンデータポータルサイト等でのデータ公開や周知・広報，事業者や大学，データ所管課等との協議・調整の場を設定，さらにはコーポレートフェローシップ制度により本市に NEC ソリューションイノベーション株式会社から派遣されたフェローの市民チームへの参画など，市職員がプラットフォームとして市民チームの取組を積極的にサポート

市民チームの取組紹介

市民チームでは、住民や観光客が京都の歴史や文化、伝統的な美しい街並みを自転車で楽しむためのサービスをデザイン！京都市をはじめ、様々な方との連携をしながらスマートフォン等のモバイル環境に対応した共創型公共サービス「chariP naVi」を考えられました！

目的地までのルート案内機能



観光地レコメンド照会機能



統計データの可視化・分析機能



取組その1

京都市オープンデータの活用による
創意工夫を凝らした
「共創型公共サービス」の提供！

chariP naVi の主な機能

- ◎駐輪場、レンタサイクルの所在地、その他の様々な情報を収集・地図上で可視化
- ◎スマホで簡単便利！住民や観光客がすぐに検索・表示できる画面設計の徹底
- ◎自転車ならではの新たな京都発見、点と点から線の観光につながるレコメンド（おすすめ）情報、自転車での所要時間、ルート案内
- ◎平時の利活用、非常時の防災・減災機能
- ◎京都市のみならず自治体オープンデータが公開されれば、容易に横展開可能な拡張性

取組その2

様々な主体とのコミュニティをデザイン！

市民チームでは京都市や京都府と協力してのワークショップ開催など、事業者や大学も含めてオープンデータを介してコミュニティをデザイン！双方向での取組成果の共有など、みんなで一緒に地域課題の解決策を考えました。



chariP naVi で活用しているデータ

●京都市オープンデータ

駐輪場・レンタサイクルデータ、観光施設データ（いしづみ、観光見もの情報、旅館業法に基づく営業許可施設等）、行政施設 LOD データ（図書館、保育園、福祉施設等）、地下鉄時刻表データ、安心・安全データ（AED、公衆トイレ等）など

●政府統計データ

統計 LOD データ（人口や産業等の統計データで都市間の比較分析に利用）

●ビッグデータ

観光地データ、バス停データ、自転車ショップデータ、交番データ、レストランデータ等

京の歴史と街並みをつたえ隊とは

京都市が提示した住民や観光客に資する自転車活用の課題に対し、京都市と連携しながらも、自分ごととして主体的に解決することを目指して結成されたチームである。メンバーはITの力で地域課題の解決を目指す市民団体である Code for Kyoto、世界メッシュコード研究会、自転車活用の推進に取り組まれる市民の方、大学の先生、京都市職員などの多様な主体により構成され、地域課題の解決を目指し活動を続けている。

【チームメンバー】

- ・黄 瑞穂さん ・藤本 有璃子さん ・山本 一男さん ・佐藤 彰洋さん ・吉川 由剛さん ・須山 朋さん
- ・昇 辰也さん ・太田垣 恭子さん ・大坪 恒樹さん ・谷内 和穂（市職員） ・井上 卓也（市職員）

報告会の開催

3月17日（土）には、Impact Hub Kyotoにおいて、Code for Kyoto 主催による報告会を開催いたしますので、用務ご多用とは存じますが是非、取材いただきたくお願い申し上げます。

- 1 日時 平成30年3月17日（土）15時～16時30分
- 2 場所 Impact Hub Kyoto (<https://kyoto.impacthub.net/>)
- 3 主催 Code for Kyoto
- 4 参加費 無料（申し込みは、

ウェブサイト（<https://code4kyoto.connpass.com/event/81696/>）からお願いします。）

3月4日に実施された最終公開審査の様子（東京大学 武田先端知ホール）

表彰式



最終公開審査で発表した市民チームのメンバー
（城山審査委員長と一緒にポーズ）

（前列左から順に）

藤本 有璃子さん（京の歴史と街並みをつたえ隊）

黄 瑞穂さん（京の歴史と街並みをつたえ隊）

（後列左から順に）

太田垣 恭子さん（京の歴史と街並みをつたえ隊）

大坪 恒樹さん（京都市フェロー）

井上 卓也（京都市）

城山 英明審査委員長



こちらがCOG2017全体の
コーディネーターをされてい
る奥村祐一東京大学客員教授

審査委員会の皆さん

（左から順に）

奥村 裕一東京大学客員教授（運営コーディネーター）

城山 英明審査委員長（東京大学公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授）

国谷 裕子さん（元 NHK クローズアップ現代 キャスター）

宇野 重規さん（東京大学社会科学研究所教授）

林 千晶さん（マサチューセッツ工科大学メディアラボ 所長補佐）

坂井 修一審査副委員長（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

大橋 弘さん（東京大学大学院経済学研究科教授）

関本 義秀さん（東京大学生産技術研究所人間・社会系部門准教授）

川島 宏一さん（筑波大学システム情報系社会工学域教授）

渡辺 美智子さん（慶応大学大学院健康マネジメント研究科教授）

庄司 昌彦さん（国際大学 GLOCOM 准教授）

プレゼンテーション



市民チームのアイデア（自転車をつなげる人・街・自然・文化！～chariP naVi と共創コミュニティデザイン～）の発表をしている黄瑞穂さん（右）と藤本有璃子さん（左）。

審査用プレゼンテーションでは、全国から集まった13のチーム（京都市の課題に対して、龍谷大学の学生により結成された「チーム Bicycle City Kyoto！」も含む。）が取組の内容を熱く語りました！

最終審査結果

最終公開審査後に発表された各賞及び受賞団体は以下のとおり

賞	受賞団体
オープンガバナンス総合賞（市民チームと自治体に授与）	京の歴史と街並みをつたえ隊，京都市
アイデア賞（市民チームに授与）	多目的トイレ発検索作成協議会（宇部市）
連携体制賞（自治体に授与）	仙台市（DATE Career）
アクセントアユース賞（学生に授与）	STEM Leaders with Hanyu（会津大学学生チーム：会津若松市）
ハーバードアッシュセンター賞（特別賞）	ストリートデザイン研究機構×明治大学（中野区）

最終公開審査には上記のほか、横浜市、鎌倉市、金沢市、牧之原市、大津市、京都市（龍谷大学の学生によるチーム）、大阪市、宇部市の計 13 チームが進出。

（参考）

オープンガバナンスとは、市民と行政が協働で地域の課題解決にあたる市民参加型社会の新しい公共サービスの枠組です。

市民は、市民参加型社会のメンバーとして地域の課題の解決に多様な知恵と経験を出しあって自分たちの問題として主体的に共同して取り組んでいきます。行政は、オープンデータに取り組んだり、市民ニーズを施策に反映させる努力をしたりして、市民参加型社会のプラットフォームとして活躍します。

COG はこうした市民や行政のオープンガバナンスの取組を支援するとともに、取組の輪を広げるため、東京大学公共政策大学院「情報通信技術と行政」研究プログラム（PadIT）が主催し、昨年度から始まったコンテストです。（今回は 2 回目）